

## 令和元年6月18日開催 第1回美祢市総合教育会議議事録

開催日時 令和元年6月18日(火)午後2時57分から午後4時26分

開催場所 美祢市役所3階 委員会室

出席者 西岡 晃 市長  
岡崎 堅次 教育長  
金子 明美 教育委員  
山本亜由美 教育委員  
刀禰 信子 教育委員  
山田 裕治 教育委員

6人

出席教育委員会事務局職員 金子 彰 事務局長  
河村 充展 // 教育総務課長  
久保 仁 // 学校教育課長  
斉藤 正憲 // 生涯学習スポーツ推進課長  
井上 辰巳 // 文化財保護課長  
矢田部敏雄 // 学校教育課主幹  
大野 義昭 // 美東事務所長  
野尻 悟 // 教育総務課長補佐  
大谷 光 // 教育総務課主査  
川崎 真史 // 教育総務課係長  
市長部局職員 山本 英樹 総合政策部地方創生推進室係長

11人

### 開 会

#### 金子事務局長

ただいまから、令和元年度第1回美祢市総合教育会議を開催いたします。まず、開会にあたりまして、西岡市長が御挨拶を申し上げます。

#### 西岡市長

皆さんこんにちは。今年度第1回目の美祢市総合教育会議を開催したところ、教育長を始め教育委員の皆様には大変お忙しい中お集まりをいただき、厚く御礼を申し上げます。

本日の総合教育会議は、今年度末までの計画期間となっている美祢市教育振

興基本計画及び美祢市立小・中学校適正規模適正配置基本方針の策定にあたり、美祢市長としてこの計画及び方針の中に盛り込んでいただきたいと考えている施策等について、また美祢市教育行政の課題やあるべき姿について、教育委員の皆さんと情報を共有できるよう意見交換をしていきたいと考えています。忌憚のない御意見、御感想等をお聞かせいただきたいと思いますので、本日はよろしくお願ひいたします。

### 金子事務局長

それでは、議事に入ります。今後の議事進行につきましては、主宰者であります市長にお願いします。

### 西岡市長

一昨年度の本会議では、ICT教育環境、学校図書館、公民館活動の充実について、また、昨年度は通学補助制度や学校給食センター整備について、教育長、教育委員の皆さんとの意見交換をさせていただき、美祢市の教育行政の目指すべき方向性を皆さんと共有することができたと感じております。引き続き、私が施政方針の一つの柱に掲げています教育充実都市の実現に向けて、これまで以上に未来を担う子供たちの成長を支え、子供の夢と未来が輝く可能性を最大限に伸ばせるよう取り組んでいきたいと考えています。本年度は冒頭申し上げたとおり、教育振興基本計画や、適正配置の方針を策定する年度でありますので、より多くの意見交換を行いたいと考えています。今回、1点目として学校再編について、その中でも小中一貫教育と学校給食センターについて、2点目は先日発表したインターナショナルスクールについて、3点目はIoTについて、それぞれ意見交換をしたいと考えています。まず、議事の1番目ですが、学校再編について意見交換をしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

### 西岡市長

学校再編についての概略ですが、本市が合併以降、小学校は11校、中学校は3校の閉校、また新設学校としては、小学校が1校、中学校が1校の開校を再編という形で行っています。資料にあるとおり子供の人数が少子高齢化の波に逆らえず、美祢市も大きく減少しています。昨年度の出生者数が81人で100人を大きく割り込んでいます。このような状況で小学校、中学校のあるべき姿をどのようにしていくかということが大きな課題であると思ひます。また、今後の美祢市の教育行政の中で、特に、小学校から中学校の一貫教育についての考えを皆様と共有していきたいと思ひております。英語教育が5年生からスタートして、学級担任から学科の担任制度に移行しなければいけない問題や小学校から中学校1年生への進学に係る中1ギャップについての問題、そして、地域から学校がなくなるときの学校の再編のあり方について、忌憚のない御意見

をいただきたいと思います。学校再編は、特に、保護者の思いや地域の方々の思いを大切にしながら進めていかなければいけないと思いますが、やはり第1は子供たちの教育をどうするかだろうと思いますので、皆様方から御意見をお伺いしたいと思います。まず、岡崎教育長から御意見をお願いします。

## 岡崎教育長

それでは、私から、小中一貫教育についての考えを述べさせていただきたいと思います。教育委員の皆さんも御存知のように、美祢市はコミュニティスクールに10年近く取り組んできました。今年からは、みね型地域連携教育を基盤にしながら、コミュニティスクールに取り組んでいます。今後、進めていこうとする小中一貫教育は、現在取り組んでいるこぶっちゃんネット、夢ネット、厚保マロンネットのような中学校区単位のコミュニティスクールが基礎になると考えます。現在の中学校区を中心としたコミュニティスクールでは、小中一貫教育が進めている9年間を見通した教育課程の編成、小学校から中学校までの9年間を通してどういう子供に育てていくのかという子ども像の形成、小学校、中学校だけでなく保育園や幼稚園、高等学校との連携などの取組を推進しております。今現在、美祢市に取り組んでいるコミュニティスクールは、県が推進する小中一貫教育に取り組んでいると言ってもいいのですが、美祢市教育委員会としては、中身の伴う小中一貫教育にしていきたいと思っています。お配りしている資料の1-①-3を見ていただき、小中一貫教育のタイプとして、施設一体型の小中一貫教育、隣接型、分離型の小中一貫教育があります。県内でも、施設一体型が徐々に増えてきていますが、資料の上の部分、美祢市の場合、美東中学校区は施設隣接分離型、それ以外の伊佐、厚保、大嶺、於福、秋芳中学校区は施設分離型になっています。コミュニティスクールの取組の中でも小中一貫教育で期待される効果は、資料の中央に記載してある連続した学びによる学力や体力の向上、中1ギャップの解消、中学進学不安の解消、自己肯定感や自己有用感を9年間の中でしっかり系統立てて高めていくことができること、一貫した学習指導や生徒指導による成長、保護者・地域の教育活動への理解と協力、教職員の意識変化と指導力の向上があります。これらは、現在も9年間の学習の方法、家庭学習の方法、生徒指導面では座り方や挨拶などいろんな場面で、取り組んでいるところです。そのようなことを9年間同じスタンスで取り組むことで、子どもや保護者の不安が解消されていく効果があり、小中学校が同じ歩調で取り組むことで、保護者や地域の理解・協力というものが得やすくなる効果もあります。また、系統だった指導方法が小学校から中学校までが続くということで、先生方の共通した指導力のスキルアップにつながっていくという効果も考えられます。そのような効果が考えられるので、今後は小中一貫教育という視点で教育を進めていきたいと思っています。

## 西岡市長

ありがとうございます。今、岡崎教育長から小中一貫教育の美祢市の取組、また目指していく方向性の説明がありました。ほかの委員の皆さんは、岡崎教育長の考えをどう思われるか、またこういう取組をした方が良いのではという考えがございましたら、御発言いただきたいと思います。

## 金子委員

現在の美祢市の小中一貫教育の進め方について、説明がありました。これに付け加え、3月の定例教育委員会議の中で、小学校と中学校の兼務辞令の話が出されたかと思えます。美祢市では先ほどの話にあったように、小学校、中学校で協力して、9年間を見通した教育課程を作成し、連携を図りながら進めており、兼務辞令を発令することで、小学校の教員が中学校で、中学校の教員が小学校で授業ができるようになります。このことは、小学校と中学校の兼務辞令によって小中一貫教育がさらに進む体制づくりがなされているというふうに解釈をしてもよいでしょうか。

## 岡崎教育長

はい。今言われたように兼務辞令というのがあります。基本的には、中学校は中学生を小学校は小学生を教えることとなりますが、小学校と中学校の兼務辞令を出すことで、小学校の先生が中学校で、中学校の先生が小学校で授業を教えることができます。3月定例教育委員会議でも説明したように、美祢市の場合は、小中一貫教育を視野に入れて、小学校の教職員が中学校の教職員免許を持つ場合、中学校の教職員が小学校教職員免許を持つ場合に兼務辞令を出しています。兼務辞令で、1番必要性を感じているのは、西岡市長が言われたように小学校の5、6年の英語教育が教科化されたため、中学校の英語の先生が、小学校に専門的な立場から指導に入ることができることです。このことは、小学校の先生にとってすごく助かることだろうと思っております。

## 西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

## 山本委員

保護者の思いを少し話したいと思います。秋芳町で学校統廃合の話が出たときに、施設一体型の小中一貫校の設置を望む声が保護者から多数出ていました。保護者がなぜ望んだかという、9年間同じ場所に通うという安心と子供の不登校問題が減るのではないかという思いからでした。もし、今後小中一貫教育を進めていくのであれば、子供の人数や将来の見通しを持って計画的に進めていってほしいということが保護者の願いです。

## 西岡市長

はい、ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

## 岡崎教育長

山本委員から不登校という話がありましたので、美祢市の状況についてお伝えします。現在小学校の児童数は約1,000人ですが、不登校として教育委員会に報告のある人数は2名で、1,000人中の2名は低い割合だと思います。中学校の不登校の生徒は、約500人の生徒数に対して約20人で、中学校になると急に増えるように感じますが、県レベルでは他の市町と変わらない割合となっています。ただし、不登校の子供の数は、小学校と比べると中学校で増えていることは間違いないので、小中一貫教育の効果とされる中1ギャップを解消のために、小中一貫教育を進めることが大きなポイントになると思っています。

## 西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

## 金子委員

小中一貫教育、特に施設一体型というのはメリットも大変多く、私も賛成しております。今、県教委も推進しており、近隣の山陽小野田市や宇部市も積極的に取り組んでいると聞いています。今後、ますます少子化が進むことは美祢市も例外ではないと思いますので、先ほどの話と少し重なりますが、適正規模、適正配置を考えながら、見通しを持って進めていただきたいと思います。

## 西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

## 刀禰委員

現在、小中合同のコミュニティスクールに先生方も参加して取り組んでいると岡崎教育長が話されました。小中一貫教育を進めることは説明されたようにメリットも多く私も賛成しておりますが、適正規模、適正配置という面からの学校再編ということと小中一貫教育をどのように進めるかということの兼ね合いについて、聞かせていただけたらと思います。

## 西岡市長

刀禰委員からの意見は大変大きい問題で、これは全市的に難しい問題だと思っています。岡崎教育長が話されたように、小中一貫教育について現在は分離型のコミュニティスクールで進めているということですが、施設一体型にすることになると、どうしても再編の問題、場所の問題が出てきます。これは大変大きい問題だと思いますし、現在の施設分離型でできていることと、分離をし

ているためにできていないことをしっかり整理していかないといけないと思います。整理した上で、初めて目的を達成するためには、施設一体型にして再編を進めていかなければいけないというような結論付けをしていくことになると思います。今後の再編計画は、この1年をかけて皆様方と議論を重ねていくとともに、市民の皆さんや保護者の皆さんの御意見もよく聞いて進めていかないといけないと思っています。

#### 岡崎教育長

今、西岡市長が話されたことについて、教育委員会の取組は、平成30年度に大田小学校と美東中学校を小中一貫教育についての研究校に指定して、問題点を洗い出し、分離型でできることとできないこと、どういうことに課題があってできないところがあるのかということの研究し、今年度の夏の教育振興大会で、成果や課題等について研究発表してもらおう予定にしています。その発表を受けて、分離型の課題や良いところを他校の小中一貫教育に取り入れていくという形で今年度から令和2年度にかけて取組んでいくこととなります。それと、施設一体型の話がありましたが、小中一貫教育で一番望ましいのは施設一体型と考えられます。施設がどんなに近くても靴を履き替えて移動することは、授業を進める上で大きな障害になります。授業の準備として例えばプロジェクターの準備やデータの作成、プリント配布やホワイトボードの準備などがあり、移動に時間を要すれば準備の時間が制限されます。それが施設一体型であれば、上履きのまま移動でき、準備の時間も確保できるため、授業の乗り入れが容易になり、障害もなくなることから、他の市町においても、施設一体型の開設が増えているのではないかと思います。西岡市長が言われるように、施設一体型を設置するとなれば、財政面の負担も増加するので、すぐに一体型とはならないと思いますが、今後、例えば、校舎の老朽化によって建替えるという話になったときは、視野の中に施設一体型という考えをもって検討する必要があると思っています。

#### 西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

#### 刀禰委員

岡崎教育長からお話がありました、小中一貫教育を進めるときに、望ましいのは施設一体型ということですが、学校を新設する場合であっても、現在研究されている大田小学校と美東中学校をモデル校とする小中一貫教育のように現存する校舎を利用する場合であっても、身体に障害を持った児童生徒に配慮した施設にしていきたいと思います。

## 西岡市長

ありがとうございます。この件については、今年度の教育振興大会で研究発表があるということです。その研究発表の内容や教育委員会の意見をお聞きしながら、また保護者や地域の方の御意見も踏まえながら、この会議を1年間通して行いたいと思います。その都度、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただき、よりよい方向に取りまとめていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 西岡市長

次に、学校給食センターについての意見交換をしたいと思います。学校給食センターに関する件については、昨年度の本会議でも御意見をいただきましたが、新しく山田委員が就任されたことや、既に御存知のとおり、昨年度美祢市の出生者数が81人と激減してきたことを踏まえ、再度、意見交換ができればと思っております。美祢市では現在、伊佐、厚保、大嶺、大田、秋吉、嘉万の6カ所の学校給食共同調理場で給食を調理し提供しております。昭和46年度に建築した伊佐調理場を初めとして、新しい施設でも平成16年度の建築であり、学校給食衛生管理基準に対応できない施設となっており、早急に建て替える必要があります。資料として、昨年度、皆様方にお示ししたプライベートファイナンスイニシアティブいわゆるPFIが導入できないかということ进行调查した際のPFI導入可能性調査の報告書概要版を配付させていただいております。確認の意味を含め、この調査の概要及び結果を説明します。学校給食衛生管理基準に対応すること等を目的に、市内19校、1,600食数を提供できる給食センターの整備にあたり、民間の資金及び経営ノウハウの活用について整備手法及び最適な事業方式の選定を行う調査業務として、株式会社長大と委託契約を行い、調査を実施しました。調査結果は事業手法の検討では、民間の能力を積極的に活用し、機能や維持管理等について、民間事業者が自ら得意な分野の技術等を最大限活用した提案が可能となり、より質の高い公共サービスが提供できること、長期一括契約により維持管理に配慮した設計、施工や維持管理、運營業務の効率化が図れ、コスト削減につながることで、施設整備と維持管理運営を一括で契約することにより、供用開始時からスムーズな運営がなされることから、PFI方式で行うことが事業方式として効果が高い結果となりました。次に、事業費の比較は15年の運営経費を含め、従来方式で約40億円、PFI方式で約39億円となり、バリューフォーマネーいわゆるVFMは4.8%程度となりました。市場調査は、学校給食センターPFI事業の落札実績のある建設企業8社、運営企業5社、調理設備企業5社からアンケート調査を行いました。1,600食数という小規模であることが懸念事項となり、積極的な参画意欲はありませんでした。また、市内の仕出し弁当を取り扱う企業26社へ電話による学校給食センターの運営について参画の意向確認を行いました。関心があると回答した企業は1社ありましたが、規模が大きいため参画

できないという回答でありました。なお、市内の建設企業については、建設業組合へのヒアリングを行い、美祿市で今後、実施をする可能性を考え、参加する意向であるとの回答を得られております。給食センターの付帯事業についても調査しています。市が提供する付帯事業として、高齢者配食サービス、病院食事提供サービス、高齢者施設食事サービスの参画意向等の調査により、食中毒等のリスク増加、顧客の確保等が懸念されるため、参加意欲にはならないといった意見をいただき、地元企業の運営企業参画の可能性が低いことから、付帯事業の実施は難しいという結果になっております。

総合評価としては、VFMは4.8%という結果が得られましたが、民間事業者の意向調査アンケートにおいて、1,600食という小規模であるため、民間事業者の出資を伴い、PFI事業者として特別目的会社を設立する手間等を検討すれば、PFI方式では魅力を感じない、コスト面等民間活用のメリットが活かしくくいなどの意見があり、意向調査の結果、PFI事業とした場合の課題として、

①学校給食事業の中心となる運営企業の参画が見込めないため、事業として成立しない懸念があり、PFI事業の実施実績のある事業者の参入の可能性が低い。

②地元企業のみで本事業に参入した場合、主体的に地元企業が応募グループの組成、提案書作成等の手続を行って、本事業に算入する必要があるため、資金的にも労力的にも地元企業の負担が大きくなることから、地元企業のみでの参入の可能性が低い。

③地元企業のみで本事業に参入した場合、PFI事業の実施実績がないため、事業者及び市ともに事業遂行に多大な負担を要する。

④複数の応募グループが参入する可能性が低いと考えられるため、競争原理が働かず、入札価格が高止まりする可能性がある。

以上4点の課題が考えられ、また、センター整備の財源として、過疎債を充当することを想定しているため、PFIのメリットである市の財政支出の平準化効果も期待できないことから、本事業は、従来方式で行うことが望ましいという調査結果となりました。以上が学校給食センター整備におけるPFI導入可能性調査についての概要となります。

一方、説明の前段で昨年度の出生者数が81人と説明したとおり、少子化は顕著に進んでいることから、調査時点では1,600食対応を想定しましたが、今後はもう少し規模の小さな施設としての運用、施設規模のダウンサイジングも必要であると考えております。調査時には給食センターと大田調理場をしばらく併用し1,600食規模になった時点での給食センターへの一本化を想定しておりましたが、整備する給食センターをダウンサイジングし1,200食以内とし、大田調理場と秋吉調理場の3カ所の併用をしばらく続け、大田と秋吉は、生徒、児童数に応じて段階的に閉鎖することができないかと考えています。センターのダウンサイジングが可能であれば、土地の有効利用の観点から、資料の4ペ



ージに記載のある候補地比較⑨大嶺高校跡地利用として消防防災センターの建設を進めておりますが、大嶺高校体育館横のテニスコート部分の活用もできると想定しております。報告書の候補地比較では、民地として美祢インター付近が2カ所、美祢工業団地が2カ所、旧大嶺高校、ここではグラウンドが想定されていますが、これらが適地ではないかという評価となっております。2 - 1、6 - 1では用地取得費が必要であり、2 - 2、6 - 2においては、用地取得費に加え、建物解体費が必要となります。一方で、大嶺高校テニスコート部分はテニスコートやプールの解体費用は必要となりますが、用地の取得費は不要であり、消防防災センター隣地として大規模災害を想定した際に、炊き出し等の連携が図りやすいというメリットも生まれてきます。もう一つの考え方として資料にはない大嶺中学校テニスコートの一角への建設も考えられますが、代替テニスコートの新設が必要となり、今後統廃合が進めば、美祢地域は大嶺中学校への統合が考えられるため、生徒数を考慮するとある程度のテニスコートを確保する必要があることや、小中一貫教育を推進する上で、大嶺小学校の移転先として、テニスコートの選択肢も必要ではないかと考えております。いずれにしても色々と悩ましい状況であり、教育委員の皆様方は、施設のダウンサイジングや、建設地としてどこがよいと思われるか、一方で、そもそも給食センターの建設をどのように思われているか、それぞれ御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 刀禰委員

児童生徒数の多い大嶺小学校と大嶺中学校の近くに給食センターができると配送のコストを減らすことができ、円滑な配送もできます。大嶺小学校が大嶺中学校の敷地に移動すればさらに円滑な配送ができると思います。しかし、大嶺中学校の敷地に給食センターができた場合は、材料の搬入とか給食配送車の出入りが多くなってきます。大嶺中学校の進入路は道幅も狭く、大嶺小学校が大嶺中学校の敷地に移動すれば、児童生徒の登下校が安全にできるように、歩道の整備や2車線の道路にしたり、給食配送用の道路を別に設けたりと安全面の配慮が必要になると思います。

#### 西岡市長

ありがとうございます。その他ありましたらお願いします。

#### 金子委員

大嶺中学校の敷地は確かに広いですが、この敷地内に大嶺小学校と給食センターをつくるとなると、十分な広さの敷地が必要になるのではないかと思います。大嶺中学校のクラブ活動を行うことも考えて十分な敷地があるのかということも質問させていただきます。

## 岡崎教育長

大嶺小学校が老朽化に伴って施設一体型で大嶺中学校の敷地に建設するという前提で話させていただきます。今の敷地内にあるグラウンドに大嶺小学校を建設することになると思いますが、少し山を削り、敷地を確保して、3階建ての校舎を建設すればグラウンド部分はあまり狭くならないと思います。ただ、給食センターも建設するとなると、現在のテニスコートの位置に設置するようになると思います。そうなればテニスコートの移転先の問題、刀禰委員が言われるように児童生徒の通学を考えれば、安全面の対策が課題になると思われます。西岡市長の話にありましたように、子供たちの数がかなり減ってきていることから、1,200食以内の給食センターにダウンサイジングして、建設が進められている防災センターの横の使われてない旧大嶺高校のテニスコートやプールの敷地内の中に、建設できるか調べてもらった結果、建物自体は可能という回答をいただいています。

## 金子委員

防災センターの近くに給食センターを建設するならば、防災センターの機能だけではなくて、給食センターでの炊き出しもできるので、防災体制としても充実したものになるのではないかと思います。

## 西岡市長

ありがとうございます。山田委員、何かございますか。

## 山田委員

私は初めてこの会議に出席させていただいたのですが、今話されていることは学校を中心とした考え方だと思います。給食の食材を提供する事業者の立場から言いますと、給食センターを一つにすれば、一度に大量の食材調達が必要となるので、大手の企業しか参入できないと思います。現在給食の食材を提供している商店は給食の食材供給に参入できず、町から商店が無くなっていくことになると思います。そうすると、教育とか学校だけの問題じゃなく、市自体の問題として、現在給食の食材を提供している商店のことも考えた上で、議論がされると非常に良いと思います。美祢市で1つの給食センターとなるとどうしてもそのような問題があると思うので、例えば、美東町、秋芳町で1つと旧美祢市で1つという形であれば、配送も素早く時間も掛けずにできるようになると思います。ただ、財政的な面で、2つの施設を建設することは難しいのかもしれないという思いもあります。

## 西岡市長

先ほどからの給食センターの話ですが、計画では冒頭申したように1,600食の施設を建設するというものでありましたが、今回、少し長い目で見ると出

生者数も減ってきていることから、全体の計画をもう一度見直して 1,200 食以内の施設にダウンサイジングして、今ある給食調理場を可能な限り活用して美祢市に 1 か所、秋芳町に 1 か所、美東町に 1 か所というような形を当面の間、維持していくものです。人口の形態も、10 年後はもしかしたら出生者数が、多くなる可能性もありますが、推計では減少することが予想されますので、減ってきた場合は給食センター 1 か所に集約をしていくというような形で進めたいと思っております。ちなみに美祢市の給食は、市内の食材が 33%程度使われており、美祢市を含めた山口県内産が 83%程度使用されております。できる限り地元産を使っていくという方針は変わりませんので、市内の商店や農家から食材調達をすることを今後も続けていきたいと思っております。

その他ありましたらお願いします。

### 山本委員

給食調理場のセンター化は現施設の老朽化等の問題からも仕方のないことなのかなとは思いますが、現在、学校給食では、食材の生産者と交流して一緒に作業した食材を給食に使ったり、調理員に感謝を伝えたり、お世話になった方を招いたありがとう給食や高学年の考えた献立を取り入れた給食等の様々な食育に対する取組が行われています。センターになったときに、これらの取組をなくすというのは少し寂しいので残せるものは残して、アレルギーの子供に対しても調理、配送から口に入るまでこれまでと同様に配慮の行き届いたものにして欲しいと思えます。小規模校ならではの食育に対する取組も踏まえつつ気持ちの温かいおいしい給食が食べられるセンター化を目指してほしいなと思っております。

### 西岡市長

ありがとうございます。山本委員のおっしゃるとおり、食育はこれからの教育でも重要なことだと思います。センターを建設するとしても、食育は今まで以上に取り組み、センターも施設見学や試食会ができるように、そして今言われました調理員の顔が見えるようなセンターづくりをしていきたいと思っております。また、学校の課外授業等で地域の方とつくった食材については、当然、給食センターで調理していただけるものだと思いますし、これからも食育に関して皆さんとしっかり協議しながら、進めてまいりたいと思っております。

この給食センターについても、今後、皆さん方の御意見、また、市民の皆さんの御意見をいただきながら、より良い形で進めていきたいと思っておりますので、また次回の会議の議題とさせていただきたいと思っております。

### 西岡市長

続きまして、議事の 2 に移りたいと思えます。議事の二つ目、インターナショナルスクールについて意見交換をしたいと思えます。5 月の臨時議会で議員

の皆様方に、5年後をめどにインターナショナルスクールの誘致を目指しているという旨の話をしました。更には、6月12日に東京の衆議院第2議員会館におきまして、これからの取組についての記者発表を行っております。

インターナショナルスクールと一言で言っても、さまざまな形態があります。このインターナショナルスクールについて、どういった形で誘致をするかということ、この5年間をかけて整理をしながら、よりよい方向に向けて取り組んでいきたいと思っています。

そういう観点から、今年度の事業として、インターナショナルスクールの関係者の会社から、美祢市でサマースクールを実施したいという旨の話がありました。8月の最後の週に秋吉台家族旅行村で、サマースクールを美祢市内の小学校5、6年生と中学校1、2年生が参加して、世界各国から来られる子どもたちは約50名と聞いていますけれども、その子どもたちとの交流をこのインターナショナルスクールの誘致の皮切りとして実施したいと思っています。ただ単にインターナショナルスクールを美祢市に誘致するだけでは、美祢市に多くの利点というか、効果があまりないと考えています。今は中学校を想定していますが、公立の中学校とどういった交流ができるか、そして、その交流をする上でどういったメリットがあるかということ、今から精査して、問題点を解決していきたいと思っています。先ほどの話にも少し出しましたが、今、少子化が進み、美祢市内のお子様は小学校から中学校に上がる時に、市外の私立の中学校に通われることが増えています。その中で、こういった特色のある学校を誘致して地域の学校と交流することで、美祢市の教育に魅力を感じて、美祢市に住みたいと思われるような地域としていきたいということで、このインターナショナルスクールの誘致を目指しているところであります。これから少し時間をかけて、この誘致に向けて取り組んでまいりたいと思いますので、不安な点など御意見をお聞きしながら、解決していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

## 山本委員

第1回のサマーキャンプを今年するという事は、今後、第2回、第3回と続けていくのでしょうか。もし続けるということであれば、希望者を募って一部の50名が参加という形ではなく、例えば、ヤングアメリカンズツアーのように学年設定をして参加させていくという形を取れば、みんなが平等に参加し、経験することができるのではないかと思います。

## 西岡市長

先ほど50名と言ったのは、世界各国から来られる人数が50名であって、美祢市内からどのぐらいの児童生徒が参加するかは、まだ決まっていますが、一応、小学校5年生から中学校2年生までを対象として希望者を募るという形になると思っています。これは1週間単位でプログラムを組まれているとのこ

とで、1週間で料金が普通であれば15万円ぐらいかかるということです。そういう面もあって、15万円を出してということはなかなか無いでしょうけれども、今回募集する小学校5年生から中学校2年生までの参加者は交流という形で2日間交流するというスキームを組んでいます。当然、料金はなしということですが、来年、再来年以降も最終的にはインターナショナルスクールを誘致するという目的でありますので、そこに向けて実施形態等の検証をしながら、続けてまいりたいと思っております。

### 金子委員

誘致されるインターナショナルスクールの具体的な規模、それから来られる方の対象年齢、高校生が来られるのか、中学生が来られるのか、それらについてどのように考えておられるかということと、現時点での誘致の見通しについて教えていただきたいと思っております。

### 西岡市長

規模は、これからインターナショナルスクールを運営しているところと協議をしていきたいと思っておりますけれども、実は今、美祢市で閉校になった学校が数多くあり、そういう学校をうまく利用したいと考えています。新設で建てるとか、学校を増築するということは考えていませんので、その規模に合わせての人数になるかと思っております。対象年齢については、インターナショナルスクールが年齢などで区切られているようですので、日本で言えば中学生ぐらいの年代の方になるかと思っております。これについては、世界各地からの誘致をして子どもたちが来るということを目指しております。今、日本にあるインターナショナルスクールの多くは、日本に滞在している外国人の子どもを受け入れていますが、そういった形ではなく、世界各地から日本で学ばせたいというようなところの御家族からの引受けも含めて考えていきたいと思っております。

そして見通しですが、インターナショナルスクールを美祢市でやりたいという方の目星はある程度付いておりますけれども、これからの財政的な支援の面、また、募集したときにどのくらい集まるのかなど、これからクリアしていかなければいけない色々な課題があります。今後5年間をかけて、課題を一つずつクリアしながら、誘致を進めていきたいと思っております。

### 岡崎教育長

インターナショナルスクールの誘致を教育委員会サイドで考えた場合、学校教育法第1条で定める学校以外の学校であり、本来の学校ではないので、企業誘致という視点で考えるようになることがあると思っております。そうは言っても、英語に特化した特徴のある学校が美祢市に来るわけですから、その面では、インターナショナルスクールは美祢市の子どもたちにとって魅力のある団体と

してプラスになることがあると思います。どうしても財政面的な問題があるので、閉校した校舎の活用ということがどうしても考えられますが、例えば公立学校、中学校でも、高等学校でも、魅力のある美祢市ならではのときに、閉校した校舎の活用であれば普通の行事的な交流はできても、一般的な交流で終わってしまうというところがあり、何か魅力としては、ちょっとおもしろさにかけているところがあります。市外からでも子どもを呼ぼうと思えば、例えば、夢みたいな話になりますが、同じ施設の中に中学生や高校生がいたり、外国人と日本人が日常の中で交流するという環境ができたり、また、インターナショナルスクールができれば、多分寮もできると思うので、その寮に一般の方も入って、インターナショナルスクールに通う子どもたちも公立の中学校、高校に通う美祢市の子どもたちも日常的な生活をオールイングリッシュの環境で過ごすことになれば魅力があると思います。

それと、もう一つ、今、留学制度の制度化が結構整ってきているわけですが、美祢市は台湾との交流をしておりますので、例えば、美祢青嶺高校から台湾の高校に留学、台湾の高校から美祢青嶺高校へ留学するといった留学制度について、寮をうまく活用して確立させていくなど、そういう面白さもあると思います。ですから、閉校した校舎の活用となるとどうしても交流に制限がかかるので、もしできるなら同じ施設の中で、日常的に交流のできる環境を整えば、魅力のある公立中学、公立の高校になるのではないかと思います。もし、日常的な交流ができる施設、先ほどの小中一貫教育と全く同じですが、そういう施設が一つになると、次に、考えられるのが授業の交流です。どうしても中学校や高校にとっては、国内の進学があるので主要5教科の交流というのはなかなか難しいかもしれませんが、実技4教科、例えば、体育をオールイングリッシュでインターナショナルスクールの子どもと美祢市の子どもでインターナショナルスクールの講師と日本の講師がTT（TeamTeaching）を組んでやってみるとか、美術をオールイングリッシュでやってみるとか、同じ施設内になれば可能になると思います。例えば、一緒に給食を食べるとか、運動会など行事を一緒に行うとかということも考えられます。せっかくインターナショナルスクールを誘致するのであれば、日常的な交流ができる環境を整えていけると良いと考えています。

## 西岡市長

ありがとうございます。そういう意見をたくさんいただきながら、インターナショナルスクールを誘致して、魅力ある新しい美祢市の教育の環境をつくっていきたいと思っております。そのほかございませんでしょうか。

## 刀禰委員

今、西岡市長からインターナショナルスクールの誘致に関することと、岡崎教育長から公立学校の子どもたちと交流すること、子どもたちのグローバルな

力を伸ばしたいということ、また、西岡市長からは他地域から移住したくなる魅力あるものに結びつけたいという考えをお聞きしました。もし、実現可能であれば、美祿市の子どもたちが田舎ということではなく、もっと自信を持って、美祿市の良さを感じることができないのではないかと思います。今、閉校した校舎を活用するという話もあり、岡崎教育長からは違う意見もありましたが、閉校した校舎の利用については、地域の人々の意向もあると思います。例えば、具体的にどの辺にというような西岡市長のお考えがありますでしょうか。

## 西岡市長

実際、場所はまだ具体的にはないですけれども、インターナショナルスクールの運営をしている方に美祿市を見ていただいて、閉校になってまだ手付かずのところもありますし、また、今、岡崎教育長が言われた日常的に、美祿市の中学校と交流していかないと、美祿市の子どもたちにあまりメリットがない、そういったところも踏まえて、どこの場所でどういった学校を設置するのが望ましいか、これから考えていきたいと思っておりますし、皆さんからも御意見をいただきたいと思っております。

先ほど、岡崎教育長も言われたように、学校教育法の第1条に掲げている義務教育とか高校、大学の資格が取れる1条校ではありませんけれども、今ほとんどのインターナショナルスクールは国際バカロレアの資格が取れるということで、その資格を取れば、大学受験が可能になってくる学校のスタイルが多いようであります。そういった意味からも、例えば、海外に興味を持たれている、留学を今後考えておられる生徒については、留学に対しての近道にもなるかと思っておりますし、国際感覚を身につけるためには中学生時代から、こういった学校に興味を持たれる方も多いのではないかと思います。そういう意味からも、やはり日常的に美祿市の子どもたちと交流ができる、そして、授業も一緒にできるような環境づくりをしていければ、美祿市の子どもたちにもかなりの恩恵があるかと思っておりますので、今から研究して進めさせていただきたいと思っております。そのほかございませんでしょうか。

## 金子委員

今後、美祿市に誘致されるということが決定した場合、市民への理解あるいは周知をどのように考えておられるでしょうか。

## 西岡市長

今回5年を目途にということで議会等において発言をさせていただいております。この5年間に市民の方に、当然のことながら理解を求めていかないといけないと思っております。また、今年度からサマーキャンプ等を実施しますが、このような機会を通じて、インターナショナルスクールがどういったものかということ、市民の皆さんに御理解いただけるようにしていきたいと思

ますし、また子どもたちにも理解してもらえるように努めていきたいと思っています。そのほかございませんでしょうか。

## 西岡市長

インターナショナルスクールについて、貴重な御意見をいただきました。この皆様方の御意見を参考に、これから前向きに取り組んでいきたいと思っております。また、いろいろな御意見があると思っておりますので、今後も忌憚のない御意見をお願いしたいと思っております。

それでは続いて、議事の3、I o Tについての意見交換をしたいと思っております。I o Tは平成30年度から進めている事業ですので、ある程度皆様も御承知のことと思っておりますが、最初に岡崎教育長からこれまでの経過と今後の事業の進め方について、お話いただければと思っております。

## 岡崎教育長

それでは、I o T遠隔教育モデル事業について、説明させていただきます。まず、I o Tという言葉は最近よく使われるようになりましてけれども、これは総務省が進めている「地域I o T実装のための計画策定推進体制構築支援事業」という事業があって、それに美祢市が応募して、全国の7市町村の中選ばれて動き始めた事業であります。美祢市ではどの分野で活用するか検討した結果、教育と観光の分野でこのI o T実装を活用しようということになりました。それで、教育において何を進めていくかと考えた中で、I o T遠隔教育モデル事業という形で進めていこうということになりました。

計画の内容は、今現在、教育委員会が進めているICT環境の整備で、まずは市内の先生がICT機器を使えないと子どもたちに整備しても宝の持ち腐れになるので、まずは平成30年度に先生方にi P a dを配付して、使えるようにということで進めてきました。令和2年度には、子どもたちにもi P a dを配付することとしております。配付数は、最大の学級人数の半分で、例えばその学校の最大の学級人数が30人としたら、その半分の15台ほどi P a dを配布することとしています。基本的には2人に1台ということになるかと思っております。それに、いろんなものを大きく投影するために整備したプロジェクターを用いて、遠隔教育を進めていこうということです。遠隔教育は、いわゆる同時双方向の画面を通して、教育を行うこととなります。どんなメリットがあるかということ、小規模校で8人程度の学級が画面を通して、合同の授業でいろんな意見を出し合うとか、専門家が居るところとつなげて、専門の話を聞いて勉強するとか、或いは不登校の生徒にi P a dを使って学習機会を確保してあげるとかということが考えられております。いろんなことが遠隔教育という形で考えられますが、美祢市では、まず令和元年度はインターネットの環境の整っている3校、具体的に言いますと、伊佐小学校、厚保小学校、秋芳桂花小学



校の3校を遠隔教育推進校に指定しています。今年度は、まず、ジオ学習でジオパーク活動の拠点であるカルスターの専門員と学校等を遠隔でつないで授業することを考えています。それで令和2年、3年にかけて、発展もしくは拡大の年度ということで、今年度の取組を見ながら、他の学校でも取組を広げたいと思います。最低でもインターネットの高速回線が開通していないとつながらないので、環境を整えながら、遠隔教育を進めております。

## 西岡市長

岡崎教育長から今年度以降の取組について、説明をいただきました。私も、これからの時代は、ICT機器を駆使した教育が必要となり、プログラミング教育においても、子どもたちが論理的な思考を身に付けるため、ICT機器の活用が有効と考えます。その意味からも、IoTについてはこれからも予算を確保しながら、取り組んでいきたいと思っています。このIoTの考えについて、委員の皆様からそれぞれ御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 刀禰委員

岡崎教育長から学校に整備するiPad、プロジェクターを用いた遠隔教育の導入をすることと、今年度、令和2年度、3年度にかけてどのように進めるかという話がありました。

二つの質問をしたいのですが、ICTの環境が整って実際に学校で使おうとしたときに、日常的に普段の授業で使いこなすための先生方の研修をどのように進めるかということと、授業の準備とか、児童生徒の指導とか先生1人では対応することが難しいと思うのですが、例えば支援員が配置されるとか、専門的な人たちが学校の中に入って先生方とともに遠隔教育ができる環境を考えておられるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

## 岡崎教育長

ICT教育環境として、iPad、プロジェクターなどの整備は、これからも進めていきますが、iPad、プロジェクターを活用した授業の教職員研修としては、今年度から年2回、小学校を中心に専門な研修を行おうと思っています。

このIoT遠隔教育は、先ほど話しましたように新たな事業として実施するので、遠隔教育推進プロジェクトチームにICT支援員も加えて、遠隔教育がどんな形でできるか、モデル校を指定して、そこを中心にカルスターと学校同士もつないで行うという特化した形で実践します。

ICT教育とIoT実装の遠隔教育が混在してわかりにくくなってしまいましたが、学校のICT教育としては、どのような教育のやり方で、どのようにICT機器を使いこなす、どのようなアプリが合うかということを検討しな

がら現在も進めています。

#### 西岡市長

そのほかございませんでしょうか。

#### 金子委員

新学習指導要領の中で、資料活用能力が、基礎学力の1つとして明記されました。ICT機器の活用能力をつけるということはとても大切なことと考えます。今年度3校がモデル校ですが、このモデル校の実践を市内に広げたり、教員の研修を今年度2回程度計画されていると、先ほど言われましたけれども、研修の場を設定したり、あるいは有用なコンテンツ等、学校と連携を密にしながら、取り組んでいただきたいと思います。それから、これからの時代を生きる子どもたちは、本当にこういう機器が使えるということはとても大事だと思っております。

#### 西岡市長

ありがとうございます。そのほかございませんでしょうか。

#### 岡崎教育長

補足しますが、遠隔教育は、無理して背伸びしすぎないようにしていこうと思っております。まずは身近なカルスターを利用してやってみようと考えています。刀禰委員が危惧されるように、先生方の技量がそこまであるかと言えば全員の技量があるわけではありませんので、まずはモデル事業として、あまり整備費用をかけずにできることをまずやってみて、こんなことができるという遠隔教育のおもしろさを先生方に伝えることができればいいと思っております。

ただ、ICT教育は、今の時代であれば、iPadやアプリ等を使ってプロジェクターで提示して、子どもたちにわかりやすい授業、おもしろい授業、生きた授業を展開するために、先生方にスキルアップをしてもらわないといけないと思っております。

#### 西岡市長

はい。教育委員会と少し離れるのですが、今、美祢市は、美祢社会復帰促進センターと小学館集英社プロダクションとヤフーと連携した事業に取り組んでいます。そこでヤフーとつながりを持てたことで、成進高校でプログラムの授業をやっていただくことが、昨年度からスタートしており、今年度も7月に行う予定にしています。そういう意味でも大手のIT企業とつながることができましたので、こういった形になるかわかりませんが、小学校、中学校、美祢市内で働いておられる教職員の皆さんに、講習等を受ける機会を設けていきたいと思っております。そういうところも活用しながら、ICT教育のレベルも上げ

ていきたいと考えています。

そのほか、特にございませんでしょうか。無いようでしたら、本日の議事については終了させていただきます。そのほか何かこの機会でございますから、ありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

特に無いようですので、閉会に当たりまして、私から一言御挨拶をさせていただきます。本日は、教育長、教育委員の皆様には御多忙のところ大変ありがとうございました。本日、皆様方からこれからの施策の方向性を定めるための貴重な御意見をいただき、大変有意義な会であったと思っております。皆さんからいただいた御意見を踏まえ、子どもたちの未来が輝かしいものとなるよう、そして美祢市で子どもを産み育てたいと思っていただけるよう、教育委員会と私も手を取り合って進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。なお、本日の会議で全ての結論が出たということではございませんので、引き続き、また会議を開きたいと思っております。できれば7月下旬から8月上旬にかけて、もう一度給食センターや喫緊の教育行政の課題について、皆様方と意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願したいと思っております。本日は大変貴重な時間をいただきまして、また貴重な御意見いただきましてありがとうございました。

#### **金子事務局長**

ありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度第1回美祢市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした。